

訂正: 前回 Bangladesh Short News : No.1 で、会社名の誤記がありましたので、下記赤字のように訂正します。

読者の方から指摘を受けました。

13. エチオピアに工場進出

Bangladesh のアパレルメーカーが、アフリカにあるエチオピアに、彼らの工場を進出させる計画を立てている。エチオピア政府は、工場誘致のために、特典を用意して世界中にキャンペーンも展開している。そのエチオピア政府のキャンペーンに賛同し、わが国最大のアパレルメーカーのひとつである DBL グループは、彼の工場をエチオピアに拡大することを決定した。他の多くのメーカーも、安い賃金やヨーロッパへの製品の船積が容易なことも考慮に入れ、彼らのビジネスをエチオピアで拡大することを考えている。DBL グループの関係者は既にエチオピアを訪問し、そこでのアパレル生産への見通しを検討した。BDL グループは Bangladesh 政府に、エチオピアでの投資の認可を申請している。

BGMEA の副会長シャヒドウッラ・アジムは、「欧米バイヤーたちは、エチオピアは RMG 工場を建設する有力な先になる可能性があると言っている。我々はエチオピアを訪問し、エチオピアのビジネス環境は新しく RMG 工場を建設するためにとても友好的であることがわかった。 Bangladesh の投資家を有利にしている便宜とはエチオピアからのアパレル製品は無課税でアメリカ市場に輸出されるということ、タックスホリデー、インフラ設備そしてパワー電力のスムーズな供給などのようなエチオピア政府からの助成を受けることができるということだ」と発言している。

1. 政治混乱(ゼネスト)、ビジネスに打撃

ビジネス関係者やホテル経営者、露店商人たちは、1月6日に始まり現在も、断続的に続いている交通妨害を中心としたゼネストのために莫大な損害を出している。市内のほとんどの店主、商人たちは、売り上げは封鎖が始まってから 40% から 70% 減少したと語っている。そしてこの封鎖がまだこれからも続けば、売り上げはもっと減るのではないかと不安になっている。再び起きた政治混乱の中、売り手も買い手も警察と与党とゼネスト支持者の間で、いつ起きかわからない暴動におびえながら、市内のほとんどの店舗が店を開いている。市内のショッピングモール、販売店、ビジネスセンターを無作為に尋ねたところ、経営者や店主たちは人々の動きが減少したため、深刻な打撃を受けていると語った。これに対し警察は増員し、市内の様々なポイント、特に奇襲攻撃が起こりやすい場所に配置し、車がスムーズに行き来できるようにし、そのような場所で混乱が起きないようにしている。

ウエスティン・ダッカホテルの販売マーケティング・ディレクターのアミット・ポールは、「ホテルは既に 1 月 4 日から 3% の宿泊や宴会のキャンセルが出ている。人々が自由に動け、安心して長い時間食事ができないのではないかと心配しているのだ」と語った。ボションダラシティ・ショッピングモールにある宝石店ダングの販売主任ジュエルは、「現在はウィンター・コレクションで稼ぎ時であるが、暴動を恐れ服を買いに来る客はほとんどいない。ボションダラシティ・マーケット付近は暴動が起きる頻度が高い」と語っている。ボションダラにある化粧品、イミテーション販売店スター・ワールドのマネージャー、サリム・アハメドは、「封鎖が始まってから売り上げは 60% 減少した」と語った。ポルトン地区で露天業を営んでいるトゥシャールは、「いつ店が襲われるかもしれないと恐れながらも冬服を販売するために店を出している。このシーズン毎日 6,000 タカ以上の服を販売している。しかし現在はその売り上げも 50% 以上減少した」と語った。ビジネスリーダーたちは、この状態をどうすればいいのか、このような対立的な政治をどのようにしたら避ければいいのかかわからず絶望的になっている。 Bangladesh 店主協会会長ヘラルド・ウッドディン・アハメドは、「 Bangladesh の政治文化の中では、この種のプログラムは近い将来も止めることはできないであろう」と語っている。ビジネスは途方もなく妨害され、その損失を補う方法は見つからない。

2. 既製服(RMG)部門、政治混乱による打撃

現在起こっている政治混乱と、ラナプラザ崩壊後から発生しているコンプライアンス問題は、既製服(RMG)部門を麻痺させている。RMG 部門の輸出からは、望まれていたレベルの外貨を収入することができなかったのだ。情報によるとこの部門は現在の会計年度上半期(7月-12月)の目標として、ニットウェアと織物アイテムから 126 億 4477 万ドルの収入が設定されていたが、実際は 6 億 2050 万ドルほど不足した 120 億 2427 万ドルであった。掲げた目標に対して取引がうまくいかなかったことを認め、 Bangladesh 衣料メーカー及び輸出業者協会の副会長シャヒドウッラ・アジムは、「ラナプラザ崩壊後この部門は、大変困難な時期を過ごし輸出はトラブルに直面した」と語った。しかし、彼は次の 2 月か 3 月には変化することを期待している。輸出推進局(EPB)のデータによると今年度の上半期の間ニットウェア部門は 62 億 1134 万ドルの収入を目標設定していたが実際は 60 億 6158 万ドルとなり、これは 2.41% 目標よりは少なかった。織物衣料部門では同じ時期目標よりも 7.27% 不足して 59 億 6270 万ドルであった。織物衣料部門は 2014-15 年度の 7 月-12

月には64億3043万ドルの目標を設定していた。

この輸出で最大の収入のあるこの部門は、国内でビジネスに対して友好的でない苦痛に直面している。情報によると現在進行中のゼネスト(交通妨害作戦)は輸出入を麻痺させ、アクセサリーのサプライ・チェーンを破壊した。ダッカからチッタゴンへの衣料貨物の輸送は、警察が護衛しているがその数はわずかであるとステークホルダー(利害関係者)は言った。BGMEAのリーダーは、「輸出業者は出荷の期日を守れるように航空便で輸送するために、追加経費を支払うハメになっている。また衣料工場へのアクセサリーの供給がスムーズに行われておらず、その上労働者と従業員の出勤が少なくなり、生産に影響が出てきている。ラナプラザやタズリーンファッション火災の後やっと勢力を取り戻し始めたこの時期に、政治が不安定になるのはこの部門にマイナス影響を与える。ゼネストを呼びかけている政党に対し輸出入用の車両は、ストライキや封鎖プログラムから外すことを訴え、もしこの部門がスムーズに動かなくては、2021年までに500億ドルの輸出収入の夢はどうていかなわぬ」と言った。

3. 7日間の道路封鎖で、RMG部門45億タカ損失

わが国のアパレルメーカーは、全ての政党にここ1月の合計7日間のゼネスト(道路封鎖)で、この部門は既に45億タカを損失しており、これ以上の危機からわが国の輸出収入最高の産業を救うように、政府に求めた。そしてこの部門は、既製服(RMG)部門とその関連企業が全ての政治活動から外され輸出入ともスムーズなサプライ・チェーンが保たれるように繰り返して訴えた。バングラデシュ衣料メーカー及び輸出業者協会会長 Md.アティクール・イスラムはBGMEA本部で、「これ以上衣料産業に被害を与えないように全ての政党に強く求めている。結局このような破壊的な政治プログラムは国全体的に経済に大きな被害を与えることになるのだ」と、現在進行中の政治状況に関する記者会見で語った。ダッカ-チッタゴン高速道路だけでなく、RMG部門関係の材料、アクセサリーそしてその関連物資を輸送している高速道路全てについて、ストライキや封鎖のような政治的プログラムから外すように彼は訴えている。すでにバングラデシュ・ニットウェアメーカー及び輸出業者協会(BKMEA)も、ニット部門と国家経済の成長を続けられるよう助けを求める声明を発表している。Md.アティクール・イスラムは、「アパレル輸出は最近やっと回復したところであるが、再び起きた政治的不安定状況が、海外のバイヤーの間でパニックを引き起こした。一日ストカ封鎖を行えば69億5千万タカ相当の輸出、21億5千万相当の生産活動に被害を及ぼす。メーカーは1月4日から強制的に起きた封鎖のために、航空運送やディスクウントそして45億タカ相当の繰延支払に直面している」と続けて語った。

4. 既製服(RMG)産業、政治混乱を乗り越え、新市場開拓に活路

わが国の既製服産業は、今年の欧米の消費水準の低迷、再び起こった政治混乱など様々な困難に直面している。アメリカ市場でGSP機能を取り戻すことや、わが国のRMG輸出、は数か国の決まった市場だけに長い間、依存仕切っていたので、新しく輸出市場を見つけることはなかなか難しい。バングラデシュ衣料メーカー及び輸出業者協会(BGMEA)の副会長シャヒドウッラ・アジムは、「2015年にはアパレルメーカーにとって数々の困難が待ち受けている。しかし、政治が安定しているかどうかが実業家たちの一番心配していることだ」と語った。既製服生産業界は貧弱なインフラ、ガスは電気不足の上で動いている。これは主な輸出部門の実業家たちが心配していることである。貿易団体のリーダーたちは新しい市場を作り出すことを輸出業者たちのチャレンジと見ている。RMG部門は2021年の終わりまでに輸出から500億ドルを収入する目的を掲げているからだ。BGMEAの元会長アンワール・ウル・アラム・チョードリ・パルベズは、「度々重なるストライキはRMG部門に被害を与えるので予定通りの船積をするために政治が安定していることがとても重要になる。政治が不安定な間は、輸出産業の30-35%以上はその生産能力を発揮することができなかった」と語った。RMGのビジネスマンは南アフリカ、ブラジル、オーストラリア、日本、チリ、中国、インド、韓国、メキシコ、ロシアそしてトルコを含めた新しい市場に輸出を拡大しようとしている。RMG部門は2013年の1月から11月に比べると5%近くの成長を見せ2014年の同期には222億5千万ドルとなった。BGMEAの研究所によると、バングラデシュの衣料アイテムは2014年の11ヶ月間で222億5千万ドルの収入を上げた。前の年は212億2千万ドルであった。データによるとこの間のニットウェアの輸出は前の年の104億ドルから6.723%上昇して110億ドルとなった。織物製品も前の年は108億ドルであったが3.05%の成長を見せ111億5千万ドルとなった。バングラデシュ輸出協会会長のアブダス・サラム・ムルシェディは、「RMGメーカーは外国のビジネスパートナーから、雑居ビルに入っている工場の移転の件で圧力を受けているが、むしろ産業用の土地不足やその高い価格が主な障壁となっている」と語った。

5. アンリマ・ヨーン社、政治混乱のあおりを受け減益

アンリマ・ヨーン染色の純利益は、昨年対比で23%減少して1860万タカとなった。この会社の代表取締役マヒムドゥール・ホックは、この利益の減少を1月に行われた総選挙のおかげで、政治が不安定になったためだと非難した。バイヤーが、衣料部門で起きた二つの大惨事の後慎重になったため、彼らの製品の需要も低下した。この会社の財政報告書

によるとタズリーン火災とラナプラザ崩壊の後、衣料業界はヨーロッパとアメリカのバイヤーから新しく要求されたコンプライアンスにも直面した。会社は製品の価格を引き下げ、積極的なマーケティングに乗りだした。これにより 2014-15 年度の初めからビジネスは再び上向きになった。

情報検証

上記のようなゼネスト情報を受け、1/29にダッカ入りし、現地状況を確認した。今年度に入ってからゼネストは、2013年度のハルタル時とはかなり違い、ゼネスト宣言時には交通は妨害されるが、工場の襲撃などは全くない。わが工場も生産にはまったくの障害を受けていない。物流も通常時より、1日ぐらいの遅延が発生している程度である。ただし、ゼネスト宣言時には、市内のすべての交通が遮断されるので、市内のホテルから工場への訪問はできなくなる。したがって日本を含め、海外からのバイヤーの足が遠のいていることは事実である。その結果、オーダーが少なくなっている工場もある。現実には、1/29～31、ジェットロ主催の「ジャパン・フェア・イン・バングラデシュ2015」がダッカ市内で開催される予定であったが、中止に追い込まれた。

6. BGMEA、345工場を協会から除籍

バングラデシュ衣料メーカー及び輸出業者協会(BGMEA)は、会費やその他の料金の支払いができなかった345の工場を、会から除籍した。345の工場のうち241の工場が、ダッカ地区にあり、104の工場がチッタゴン地区にある。法令条項7(A)により、BGMEAはそのメンバーを除籍したと発表した。その結果として現在のメンバーの数は**4,222**に減少した。衣料輸出への影響について質問を受け、BGMEAの副会長シャヒドウッラ・アジムは、「これらの工場は生産活動にはあまり関係なかった。これらの工場は会員ではあっても生産にはあまり関係しておらず、BGMEAの活動にもあまり参加していなかった。このことで輸出量が減少することはない」と答えた。参考までに、BGMEAは2002年から合計1,654のメンバーシップをキャンセルしている。BGMEAのデータによると、その内502の工場が2002年度に586の工場が、2012年101の工場が2013年にキャンセルされた。

7. 2年間で300の新縫製工場出現、450の閉鎖

ここ2年間の間に300以上の工場が出現し、一方最近起きた賃金値上げや安全コンプライアンス条件を含めた逆風に直面し450の工場が閉鎖した。BGMEAの副会長Md.シャヒドウッラ・アジムは、「新しい工場のうち、新しい実業家が137の工場を始め、残りは現存する工場が拡大したものである」と語った。バングラデシュ衣料メーカー及び輸出業者協会(BGMEA)のリーダーたちは、「ノンコンプライアンス、欧米の小売業者の監査、最近決定された賃金値上げ、そして前の年(2013年)の政治混乱が注文にマイナスの影響を与え、その結果既製服(RMG)ユニットの閉鎖となった。一方、タズリーン火災とラナプラザ崩壊後に広がった逆風にも拘らず、安全コンプライアンス条件を満たして新しい工場も設置された。工場閉鎖のため約25万人の失業者を出したが、新しい工場は18万人に雇用の機会を与えた」と語った。工場閉鎖の理由としてBGMEAリーダーは、「オーナーの多くはコンプライアンスを満たすことができず、工場を閉鎖した。閉鎖された450の工場の中には生産コストが著しく上昇しても、バイヤーが買値を上げなかったため、アップした賃金を労働者に支払うことが困難になり閉鎖した工場もある。ビジネスを続けることができず、自ら望んで生産工場を閉鎖したオーナーもいた。2013年の政治混乱(ハルタル)も一部の実業家たちのビジネスを止めさせる状況に追い込んだ。そしてバイヤーたちの“道義に反する”ビジネスのやり方も工場閉鎖の責任である。彼ら(バイヤー)は安全とコンプライアンスを守ることで圧力をかけたが、その一方製品の値段を上げることはなかった」と語っている。

アジムは、「ラナプラザ惨事の後、雑居ビルに入っているRMG工場から製品を調達することを海外の小売業者は既に停止しており、他のバイヤーたちもこのような工場に製品を注文するのは気が進まない。欧州や米国のバイヤーとはH&M、C&A、クルーズ、Kマート、ターゲット、ギャップ、ウォルマートそしてJCペニーなどが含まれている」語っている。産業内部関係者によると、新しい工場はノンコンプライアンスの工場を閉めて移転したものも含めている。新しい工場のほとんどがガジプール、バルカそしてマイメンシンに設置された。またマグラ、ジョジョール、ニルファマリ、ハビガンジそしてシレットにも建設されたと付け加えた。2014年に操業が始まったオリジン・アパレル・リミテッドの代表取締役カン・モジュリシュは、「コンプライアンスを守るしか注文を受け、生き残る道はない」と言った。彼の45,000スクエア・フィートの工場は7つの出口と他の安全条件を取り揃えてガジプールの産業地区に移転した。モジュリシュは、「約600人の労働者で欧州向けの織物製品の船積をした」と言った。

8. RMG部門労働者の技術向上のための訓練基金創設

バングラデシュ衣料メーカー及び輸出業者協会(BGMEA)副会長レアズ・ビン・マハムドとバングラデシュ技術と雇用プロジェクト(SEP-B)のチーム・リーダー、ポール・ウエイジャーは、衣料産業労働者の職業訓練が容易になるように、労

働者訓練基金プロジェクトのため了解覚書に署名した。SEP-B は開発協力プログラムで、国際開発と協力のためのスイス団体の共同融資で行われている。署名式は市内にある BEMEA の会議室で行われた。これに伴い BGMEA 会長アテイクール・イスラムは、「我々は RMG 労働者の技術開発と労働者による生産力の増強に焦点を当てている。このプログラムの一部として、我々は職業訓練を共同で行うことにした。ベトナムの労働者には技術があるので、彼らの生産力はバングラデシュの労働者よりずっと高い。RMG の労働者は 2012 年までに目標にしている 500 億ドルの輸出に達成するように、技術を向上させる必要があり技術開発プログラムはこれを達成させるために役立つ」と語った。

9. アパレル・アクセサリー部門、政府に助成要請

産業大臣アミール・ホセイン・アムーは、「アパレル・アクセサリーと梱包メーカーには、優先的に BSCIC エステイトまたは計画中のゲーム・パークに敷地を獲得できるようにしている。また、アクセサリーや梱包産業が増大するように必要な政策援助を拡大させる」と公約した。市内で行われた 4 日間にわたるフェアの開会式で、バングラデシュ衣料アクセサリー及び梱包メーカー及び輸出業者協会 (BPAPMEA) の要請に応じて、大臣は公約した。BGAPMEA 会長は研究機関試験室を設置するための土地と現金助成、そして衣料アクセサリーと梱包部門が成功するための奨励 (融資) パッケージを準備することを求めた。さらに使用許可 (UP) 発行問題の解決や、輸出開発資金 (EDF) も低い利率でこの部門の開発のために準備することも求めた。彼は、「もし政府からの政策援助を得ることができれば、わが国のアパレル・アクセサリー及び梱包メーカーは、2018 年までに 120 億ドル相当の輸出できるようになるだろう。アパレル・アクセサリー及び梱包部門は 2014 年度には 47 億 5 千万ドルを稼いだ。この部門の平均成長率は 13% で 200,000 万人の労働者を雇用している。取引団体の要請に応え、財務計画国務大臣 MA マンナンは UP 問題を解決し、アパレル・アクセサリー及び梱包メーカーが現金助成と奨励政策を得ることができるようにステップを取るようにならなければならない」と言った。

彼は、「ラナプラザ崩壊事故の後コンプライアンスを確実にするためのステップを取った後、海外のバイヤーたちはわが国に戻ってき始めた。しかし現在彼らは政情不安のため危険を感じている。この状況が続けば、バイヤーはバングラデシュへの訪問をやめ、RMG 部門は大変な危機に陥るであろう。バングラデシュアパレル・アクセサリー及び梱包メーカー及び輸出業者協会 (BGAPMEA) は、AKS 貿易博覧会プライベート・リミテッドとザカリア・トレード・アンド・フェアインターナショナルの協力で国際 GPA エキスポ 2015 ガーメテック、ヨーン及びファブリック供給フェアを開催している。このフェアでは様々な衣料アクセサリー及び梱包製品そしてその関連機械の展示をしている。これらのフェアは様々な衣料アクセサリーと梱包製品そしてそれに関係する機械を展示することになっている。このことは世界の様々なところへの機械や新しい技術の供給プラットフォームを作り出すことになる。そうすれば更にビジネス機会を探索することに役立つはずだ。後方関連産業はボタン、ダンボール、包装、ゴム、絞め紐、刺繍、芯地、ラベル、パッド、ポリティン袋、縫い糸、ファスナー、プラスチック・アイテム、背ボード、首ボード、ガムタップそしてバーコードなどを含む 35 のアイテムを生産している。インド、パキスタン、中国、台湾、オーストラリア、ドイツそしてドバイを含む 30 国近くがこのフェアに参加することになっている。フェアには 632 のストールが入り、毎日 11 時から 8 時まで開催されることになっている。一般市民にも開放されており、その場で名前を登録することでこれらのフェアを楽しむことができる」と語っている。

10. 再び米国へアパレル製品免税要請

バングラデシュ政府は再びアメリカ市場に免税アクセスと求めることにしている。バングラデシュはアメリカへアパレル輸出をするのに途方もない高い税金を支払わなくてはならないからだ。この要請は、5 月ワシントンで予定されている Ticia (貿易と投資協力フォーラム協定) の第 2 回会議で行うことにしている。2013 年 11 に調印された Ticia は、話し合いを通して 2 国間の貿易に関する論争を調停するプラットフォームである。「我々は来月からこの会議のための協議事項の準備を開始する。我々の目的はアメリカへの輸出を増加させることだ」と、商務省シニア書記官バダヤトウツラ・アル・マモーンは言った。競合国の中でバングラデシュがアメリカの市場への輸出で一番多くの税金を支払っている。バングラデシュの輸出業者たちは、衣料輸出のためにアメリカに現在 15.61% の関税を支払っており、これはわが国の輸出増額の 81% を占め、アメリカへの輸出増額の 95% を占めている。中国は衣料輸出のためにアメリカに 3.08% の関税を払い、ベトナムは 8.38%、インド 2.29%、トルコ 3.57% としてインドネシアが 6.30% 支払っている。バングラデシュは昨年 4 月ダッカで行われた第一回 Ticia 会議で、関税の優遇も求めた。マモーンは第 2 回会議で、政府はバングラデシュへの一般特惠関税制度を回復するために、アメリカから要求された職場の安全の確立のために果たした改善も強調することになっている。GSP は昨年 7 月から全ての国々で停止されている。アメリカの貿易交渉最高団体であるアメリカ合衆国通商代表は職場の安全と労働者の権利に深刻な欠点があるとして、今年の 6 月 27 日停止した。

11. 需要増加で綿使用 4% 成長

ロンドンに本部を持つエコノミック・インテリジェント・ユニット (EIU) は、バングラデシュの綿の消費量が国内の紡績工

場やテキスタイル・サブ・セクターへの海外からの投資家の需要が増えたため、2015-16 年度は 4.08%増加するであろうと予想した。消費量は貧弱な安全水準にも拘らず、主にインドや中国からテキスタイル部門の投資が移転してきたために 102 万トンに増加するであろうと EIU は語った。綿の消費量が 100 万トンを超えるのは初めてのことである。EIU はエコノミストの新聞を持つエコノミスト・グループの研究分析局である。「もし外国からのテキスタイル部門への投資計画が実際に実現されれば、バングラデシュでの綿の消費量は増加する」と、バングラデシュ・テキスタイル紡績協会前会長ジャハンギール・アラミンは語った。わが国の紡績業はガスや電気不足のために実際の生産能力以下で動かされていた。政府は遺伝子組み換えをされた綿を導入する計画を発表したが、1 月 1 日に発行された EIU 報告書によるとバングラデシュは輸入に大きく頼っている。わが国の現在の輸入はアメリカ、インド、パキスタン、オーストラリア、ウズベキスタンそしてその他の国々から一年に 98 万トン以上輸入している。しかし、貧弱な安全水準はこの予想に下向きの危険性に繋がるであろう。わが国の紡績はニットウェアのサブセクターに 90%の供給をすることができるが、織物サブセクターには 40%の生地しか供給することしかできていない。2013 年に工場が崩壊し 1,100 人の労働者の死を招いたため、バングラデシュの 80%の輸出を占めている衣料産業は詳細検査をされた。この部門の安全問題は欧米のバイヤーをもっと良い水準で法規が安定している国へ、新しい生産基地を求めさせる危機を示していると EIU は言った。EIU は世界の綿消費量は 2013-14 年度にはやや下降したが 2014-15 年度は 3.3%拡大されるであろうと予想している。バングラデシュは衣料市場にわずか 40%しか生地を供給できないので、1 年に 50 億ドル以上の織物繊維をインドや中国から輸入している。

12. 衣料輸出回復中

様々な困難に直面しながらも、**中国から注文をバングラデシュに移動したいという小売業者の意欲が増加**し、衣料輸出は 1 年前に比べ 5.58%上昇し 246 億ドルとなった。輸出推進協会によると 1 年前の 235 億ドルに対し、246 億ドル相当の衣料製品が 2014 年には輸出された。その上、2014 年の終わりには景気が回復されたように見えた。

バングラデシュは 11 月までは 19 億 4 千万ドルであった輸出も 12 月には 23 億 3 千万ドルの輸出をした。最新の数字はこの部門に後押しする数字となった。この部門はここ数年タズリーン火災とラナプラザ崩壊という二つの大惨事の後、雑居ビルに入っていた中小企業工場の多くが、職場の安全のために小売業者の新しく改善された基準を求める規定に従うように奮闘している。バングラデシュ衣料メーカー及び輸出協会会長アティクール・イスラムは、「我々は正しい方向に向かっている。2015 年には安全対策を向上させた分、利益が上がるものと期待している。しかし再び政治混乱が起き、先行きが不安である」と、言った。全体的に輸出は 12 月に 4.33%成長し、28 億 4 千万ドルとなった。しかしこれはこの月の目標であった 28 億 6 千万ドルにわずかに届かなかった。12 月の売り上げは 2014-15 年度には上半期の輸出収入を 1 年前より 1.56%増加させ 149 億 1 千万ドルであった。この金額は 6 ヶ月間の目標 156 億ドルには届かなかった。

13. 子供服、国際マーケットシェア獲得

バングラデシュの子供服は、外国の小売業者やファッションブランドが興味を示し、国際市場で優位な位置にある。わが国のベビーウェアメーカーは、競争価格で国際的な品質基準を満たすような様々なアイテムを用意している。バングラデシュ衣料メーカー及び輸出業者協会 (BGMEA) の研究所によると、現在の会計年度の最初の 5 ヶ月間で 25%という著しい上昇を見せた。ウォルマート、JC ペニー、ザラ、テスコ、イケア、マークス・アンド・スペンサー、G スター、ロー、ユニクロそしてリー・アンド・ファンクは、子供服の新しい注文をインドや中国からその供給地を、バングラデシュに移動させた主な国際ファッションブランドである。有名なアパレルメーカーは、彼らのベビーウェアをアメリカ、ドイツ、イギリス、フランス、アルゼンチン、ブラジルそして韓国のような今までの市場と新しく開拓された市場に輸出している。最近、オーストラリア、韓国、ロシア、日本、タイ、シンガポール、アルゼンチン、チリ、ウルグアイ、ポルトガルそして中近東に新しく国際ビジネスパートナーを見つけた輸出業者もいる。

BGMEA のデータによると、180 億ドルタカ近くに相当する子供服が、今年度の最初の 5 ヶ月で船積された。これは昨年の同期に比べ 25%の上昇となっている。大手アパレルメーカーのジャイアント・グループの代表取締役ファルク・ハサンは、「今まで、国際ビジネスパートナーはジーンズ、T シャツそしてその他の衣類をバングラデシュから購入してきたが、最近品質と価格のお陰で、わが国のベビー服に大きな興味を見せている。これまでのアパレル・アイテムと共にわが国のベビー服を求め、数多くの国際バイヤーがインドや中国からわが国に供給地の移動を始めた。バングラデシュのファッションデザインはベビーウェアに多様性を創造してきた。結果として、国際パートナーたちは興味を示したのだ」と語っている。BGMEA 会長アティクール・イスラムは、「ベビーウェアアイテムだけを生産する工場が数多く建てられたので、我々は全ての種類の子供服を提供できるようになった。わが国の輸出業者は中国、ベトナム、インドそしてパキスタンと競争してきたが、これらの国々は現在生産費用の値上がりに直面している。しかしバングラデシュでは労働力が十分あるので生産コストは手ごろである」と語った。

14. EPZ ユニットによる輸出拡大

わが国にある輸出加工地区(EPZ)に入っている産業ユニットは、世界市場でもっとシェアを掴もうと輸出枠を拡大するために、多様な製品の生産を担っている。関係者によるとウツラEPZ、イシュワルディEPZそしてモングラEPZを含め8つあるEPZの産業は、竹製の棺おけ、カツラ、ファッション・ヘア、おもちゃ、めがねのフレームそしてサングラス、テント、寝袋、革そして旅行用品、電池、様々な農産物などのような多様化された製品を生産している。イギリスに本部を置くオアシス・トランスフォーメーション・リミテッドは、ウツラ EPZ で竹製の棺おけを生産している。関係者によると地元の人々を雇用し 34,000ドル投資して EU 諸国で、大きな販売を展開している。グリーン葬儀として広い地域で使用されているこの製品は、中国やその他の国々でも広く生産されている。また、バングラデシュ・マーシャル・アイランド合弁会社ロヒマフルーツ・グローバット・リミテッドは、イシュワルディ EPZ で電池を生産するために 2268 万ドルを投資した。工場では 445 人近くのバングラデシュ人を雇用し南アジアで最大の生産量となっている。イシュワルディ中国系のエバー・グリーン・プロダクト・ファクトリーBD・リミテッドとYCL インターナショナル・インダストリーズ・リミテッドは、カツラやファッションヘアなど多様化された製品を生産している。工場は 2275 万ドルを投資し、これまで 7075 人のバングラデシュ人を雇用している。この他にもイシュワルディ EPZ ではティアネ・アウトドア(BD)カンパニー・リミテッドがテント、寝袋、バックパックなどを生産している。その筋によるとモングラ EPZ にある合計 8 つの農業を基本とした産業が多様化した農産物の生産に携わっている。生産の多様化は政府が国際市場のシェアを拡大し輸出量を増やすための戦略である。結果として、多様化された製品はバングラデシュが新しい市場を開拓するのに役立ちより多くの外貨を収入できると輸出業者は語った。

15. 観光産業、RMG 部門を超える可能性

バングラデシュの観光産業は、既製服部門が稼いだよりも、もっと稼ぐ可能性がある」と観光大臣は力説した。バングラデシュ観光大臣ラシード・カン・メノンは、「観光部門は人々の態度に依存していると語った。バングラデシュの経済の大黒柱である衣料部門は原料費を支払った後、労働費を残した後は、残りを外国人が持って行ってしまふ。これに比べると、観光部門は 100%の利益価値がある」とメノンは第 6 回国際観光フェアで語った。住宅公共事業省大臣モシャッラフ・ホセインは安全問題がバングラデシュの観光に対し最大の障害になっていることを指摘した。メノンはインフラ開発のための基金を奪われていたことを認めた。彼は 2016 年を観光の年と宣言する計画を立てていると述べた。大臣はコックス・バザールに空港を建設することそしてテクナフス・サブラングに特別観光地域を設けることも発表した。「もしこの部門を優先待遇すれば、この部門は外貨収入をリードし雇用の機会を増やすであろう」とメノンは付け加えた。

以上